

途上国の子へ 善意の「音色」

浜松のNPOが不用楽器回収、送付

浜松市西区のNPO法人「エコライフはままつ」(荒木信幸理事長が、不用になった鍵盤ハーモニカとリコーダーを市民から集めて発展途上国の子供たちに贈るプロジェクトを進めている。音階を奏でる楽器に初めて触れる子供たちが多く、現地では喜ばれているという。現在はアフリカ南東部のマラウイに届ける楽器を募っている。



イベントでブラスを構え、寄付を呼び掛ける高根美保事務局長(左)＝浜松市中区

同団体は資源の有効利用を図るため、2008年からホームペーシなどを通じて楽器の提供の呼び掛けを始めた。鍵盤ハーモニカやリコーダーは電気やメンテナンスが不要で、

長期的にリユース(再利用)が可能のため、2008年からホームペーシなどを通じて楽器の提供の呼び掛けを始めた。鍵盤ハーモニカやリコーダーは電気やメンテナンスが不要で、

これまで全国各地から寄せられた鍵盤ハーモニカは561台、リコーダーは1539本に上り、ボツワナやグアテマラなど5カ国計9回の贈呈を行った。マラウイにも国際協力機構(JICA)の協

力で、地方都市や村落部の学校を中心に直接届けてきた。太鼓など打楽器以外の楽器は初めて目にする子供ばかりだという。

5月中旬に浜松市で

(浜松総局・小糸恵介)

開かれたイベントではブラスを構え、来場者に寄付を呼び掛けた。高根美保事務局長は「押し入れの中に入ったまま、ごみになってしまつものが喜んで使ってもらえる場所がある。特に子供たちに知ってほしい」と言葉に力を込める。楽器は継続的に募集する。詳細はホームページに記載している。楽器輸送費の寄付も募っている。問い合わせはエコライフはままつへ電053(440)0006へ。

5カ国に贈呈「さらに寄付を」



鍵盤ハーモニカの演奏を楽しむ人たち＝2015年2月、マラウイ(エコライフはままつ提供)